

医学概論		講義	教授 加藤 政彦
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13341101

1. 授業のねらい・概要

本授業は、これまでの医学や医療の歴史を通して、医学とは何か、人の生、自己意思、命の尊さ、研究倫理や死の概念といった生命倫理について理解を深め、さらに医学の分野に特化した健康と病気の定義、予防医学や最新の医学についても理解する。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

<p>1. 医学の定義とその使命 医学とは何か、医学の使命について理解する。</p> <p>2. 医学の歴史 近年医学の発展や概要について理解する。</p> <p>3. 医の倫理学 医学や医療に携わる上で必要となる倫理観についての理解を深める。</p> <p>4. 先天異常と出生前診断 先天異常と出生前診断について理解し、生命の誕生に関する理解を深める。</p> <p>5. 周産期・新生児医療 周産期および新生児医療についての理解を深める。</p> <p>6. 子供の事故 子供の事故の現状を理解し、その問題点について理解を深める。</p> <p>7. 小児の虐待 小児の虐待の現状と救急隊員が関わる意義について学修する。</p> <p>8. 小児の感染症 小児に特有の感染症について理解する。</p>	<p>9. 小児救急 小児の救急疾患とその対応について理解を深める。</p> <p>10. 緩和医療と安楽死 終末期医療の実際と尊厳死・安楽死について理解し、人の「生」と「死」についての倫理観についての理解を深める。</p> <p>11. 脳死・臓器移植 植物状態と脳死の違いや、臓器移植に伴う法律や実施手順を理解する。</p> <p>12. 血液事業と輸血 本邦の献血から輸血までの流れを理解し、その意義について理解する。</p> <p>13. 予防医学 ワクチンによる感染症予防について学修する。</p> <p>14. アレルギー・免疫 アレルギー・免疫疾患とその救急対応を学修する。</p> <p>15. 現代医学 新興感染症・がん・最新医学（iPS細胞等）の現況を学ぶ。</p>
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 医学の歴史から、人と病気の関連性を理解する。
- 2) 予防医学の観点から、現代における「健康と病気の定義」について理解する。
- 3) 「ヒポクラテスの誓い」を始めとして、その後提言された内容から、様々な生命倫理学の諸問題を理解する。
- 4) 人の「死」という概念を医学的に理解できる。
- 5) 人の命や健康を重んじた言動や行動が、「救急処置演習や実習」で実施できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

平常点 (30%)、定期試験 (70%) を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：北村 諭著，医学概論 改訂8版，中外医学社，2023年

参考文献：小関一英編，2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数³の1 (6回) 以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

医学系授業の基礎となり，医療従事者であれば常に考え，身につけなければならない学習内容である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。